

宮古市民文化会館復旧記念事業

市民による舞台芸術発表

みやこ市議会だより

2014

平成26年

12月議会

No.39



羅針盤

らしんばん



表紙：大震災から3年9ヶ月がりに再開した宮古市民文化会館
新たなスタートを祝って声高らかに合唱を披露する市民
(2014年12月21日)

INDEX

市民との対談…2P 12月定例会補正予算決まる…4P 討論・採決状況・議会リポート5P 議会報告会を開催…6P
ここが聞きたい「一般質問」…9P 新年あいさつ・お知らせ・編集後記…20P

市民との対談

Vol.3

市内で建設業に携わる方にお話を伺いました。復興からまちづくりへと変遷する宮古市を間近で見ている三人には、議会や宮古市はどう映っているのでしょうか。



小山田久美子さん

岩館 哲也 さん (沢与建設株式会社)

北村 祐治 さん (株式会社佐々木建設)

小山田 久美子 さん (株式会社小山田組)



聞き手 議会広報編集委員

「復興現場に関わって感じることは」

あれからまもなく4年、復旧復興に向けて日夜頑張ってきました。震災直後は

我々がするべきことは何かを自問しながら、重機を使うものなどがれき撤去をは

じめとした様々な仕事を行いました。宮

古市の復旧が早く進んだのは我々の頑張

りがあったからだと言われる、そして皆さ

んに喜んでもらえる部分だと思っています。

震災後仕事は増えましたが逆に人手が足

りない、技術者不足に陥っているのが現

状です。即戦力が欲しくてもなかなかう

まく行かず、採算が合わないことも多い

です。業界のことを考えると、将来性が

ある人が来てくれればいいのですが見通

しがなかなかつかない状態です。

一方では復興がらみの仕事で忙しいの

ですが、年々売上も落ちていて業界でも

焦りが見えてきています。入札仕事はま

だまだあるのですが、人手が足りず、入

札を辞退することも。また大きい仕事を

持つと他の仕事ができなくなったり、下

請けが見つかからないという苦労もありま

す。中身については、去年まではがれき

処理などが多かったのですが、今年は一

成の工事などが増えて、復興が進み工事

の種類が増えたと感じています。ただ建

設需要は今後3年程度で、終わりは見え

てきている気がします。

「宮古市のイメージは」

気候は温かく良い所ですが、どちらか

と言えば陸の孤島という感じですか。しか

し、昔は大型の船も出入港する交通の要

所でもあり、海辺のまちというイメージ

はあります。

住む上での単価が高いなども上げられ

ます。例えば私たちが仕事で扱う生コン

などの建設資材も高くなっています。生

活という面では交通の便が悪かったり、

医療などは盛岡に行くことも多く施設や

サービス等が充実していません。その辺

がきちんとしないと人が流出していくの

かな、と思います。

「議会のイメージは」

何を発案、決定したのかわかりにくい

です。議会のことは興味がないわけでは

ないのですが、実際何をやっているのか

わからないし、議員の皆さんが何を知り

たいのかもわからない。もつと身近に実

感できるものであればいいと思います。

議会だよりは休憩時間などにパラパラ

見る程度。じっくり見たりはしていません。



岩館哲也さん



北村祐治さん

復興が終わっても現状維持では何も変わりません。
 一歩前に進み、前以上のまちになって欲しいと思います。

ん。表紙を見る程度かな。字も多かつたり、なかなか見る気がおきません。お年寄りを見るかもしれないですが、若い人だと見ていないと思います。これ以外の宣伝の仕方、例えば車を運転中、町を歩いている時にもわかるような周知があれば、興味も出ると思います。

「議会に対する要望は」

正直、何をしているかわからないので、要望というか何をして欲しいのかもわかりません。おそらく宮古市民は関心が無いのでは。人口の多い都心部であればいろいろな言い分があると思いますが、なんとなく市民の中でも壁があるような気がします。また日々の暮らしで精一杯。私たちの仕事に関して言えば入札の出し方に配慮し、このまま一気に終わらないように優先順位をつけて出して欲しいです。

「宮古市に一言」

まちに魅力がないので、遊びなど盛岡に行ってしまう人が多いです。そのため市内になかなかお金が落ちません。施設関係で言えば、医療施設の充実をはじめ娯楽的なものも欲しいと思います。また

若い人が外に出ていかないような市になって欲しいです。娘が他県の大学に入っているのですが、そこは若い人が外に出ていきません。それは大学や専門学校が多く、就職もそこでできてしまうからです。若い人がいればそうした人が集まるお店も出来ると思います。難しいとは思いますが、こういったことができればいいと思います。

水産業が盛んな時期、景気のいい話をよく聞いていました。再び水産業が盛んなになれば、仕事も増えていくのかなと思います。地域に水産大学のようなものができればいいですね。また復興が終わっても現状維持では何も変わりません。一歩前に進み、復興が終わったあとは復興前以上のまちになって欲しいと思います。宮古市は広いのでその広さを活かして海も山もと言ったトータル的にどこでも住みやすい場所にして欲しいと思います。

※人出不足や工事発注の問題などで、私たちが思っているよりも苦労を強いられる建設業の方々。復旧の先にある新たなまちづくりに向けて日々努力していることに感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。

26年度 一般会計・特別会計補正予算 4件を可決

田老、銚ヶ崎・光岸地地区都市再生区画整理事業復興関連業務委託料や
小学校太陽光発電設備設置工事費（4小学校）など 161億9857万円を追加

平成 26 年度一般会計補正予算は既定の歳入歳出それぞれ 161 億 9857 万円を追加し、予算総額は 832 億 3859 万円となりました。主な歳入は東日本大震災復興交付金などです。

平成 26 年度各会計別 12 月補正の内容

会計別	区 分	支 出		計
		補正前の額	補 正 額	
(1) 一般会計		670 億 4002 万円	161 億 9857 万円	832 億 3859 万円
(2) 特別会計				
	国民健康保険事業勘定	81 億 6094 万円	278 万円	81 億 6372 万円
	浄化槽事業	2 億 9266 万円	4172 万円	3 億 3438 万円
	魚市場事業	1 億 3766 万円	1 億 2070 万円	2 億 5836 万円

今回補正の主な事業（一般会計）

津波遺構保存整備事業 「たろう観光ホテル」の保存工事。今後の支出予定額に合わせて補正。	1,208 万円増額
生活再建住宅支援事業 被災した宅地等の補助要件の緩和による事業費の増加。	1 億 2,940 万円増額
田老地区都市再生区画整理事業 銚ヶ崎・光岸地地区都市再生区画整理事業 事業の進ちょくに伴う、事業費の増額。	7 億 3,500 万円増額 17 億 1,010 万円増額
福祉灯油購入費助成金 高齢者や障がい者世帯及び生活保護世帯等を対象に灯油購入費を助成するもの。4,700 世帯を予定。	4,872 万円追加
水産業共同利用施設復興整備事業費補助金 水産加工業や流通業の復興のため、漁業者団体・民間団体等の施設建設に補助するもの。	6 億 8,875 万円増額
災害公営住宅整備工事費 田老乙部団地住宅、金浜住宅の工事費等。	13 億 4,380 万円増額
小学校太陽光発電設備設置 避難所となる銚ヶ崎小、津軽石小、赤前小、田老第一小の体育館に電源確保のため設置するもの。	2 億 5,847 万円増額

議会レポート
議員定数条例の
一部を改正する
条例を全会一致
で可決

12月10日の本会議で、議員定数を次期の一般選挙から現行28人を22人に削減する条例を可決しました。

議員定数削減条例は、議員発議で議会運営委員会委員長から提出されました。定数削減については、各会派で意見を集約、議員全員協議会で協議決定し、議会報告会での説明を経て提出に至ったものです。

**JR山田線
三陸鉄道に移管
移管協力金
30億円負担**

12月17日に議員全員協議会が開催され、東日本大震災で被災し運休が続いているJR山田線宮古釜石間（55・4km）の三陸鉄道への移管案について、山本市長から説明がありました。
内容は、11月25日開催され

請願・意見書の審議結果

12月定例会では、請願2件、意見書1件を審議しました。

請願1件は経済常任委員会に付託され、「採択すべきもの」として委員長より報告され、本会議で全会一致で採択されました。委員会提出の意見書1件は、本会議で審議され可決されました。

請願1件は総務常任委員会に付託され、「採択すべきもの」として委員長より報告されましたが、本会議での採決の結果、賛成少数で不採択となりました。反対、賛成の討論の概要について掲載します。

「延期」ではなく消費税10%増税の中止を求める請願

反対討論

茂市敏之 議員

政府は現在社会保障と税の一体改革を進めている。これは社会保障の充実、安定化と、そのための財源確保と財政健全化の同時達成をめざすものである。厚労省の資料によると来年度の医療・介護・子ども子育て支援等、社会保障に係る合計金額は約119兆円と推計されている。これに対し団塊の世代がすべて後期高齢者となる10年後2025年には約149兆円と実に30兆円も増加すると推計されている。今年度も一般歳出の実に54%にあたる30・5兆円を社会保障等の特別会計に繰り出している。いずれ消費税

賛成討論

落合久三 議員

この請願の主眼は、そもそも論として消費税の是非や、社会保障費の財源をどうみるか、などを争点とした請願でないことをまず強調したい。問題は、「1年半後、景気がどうあれ断固として10%引き上げを行う」と言明し、消費税法附則の経済条項の削除すら示唆

医療・介護・子ども子育て支援等がすべて成り立たなくなるのは明らかである。人口減少・少子高齢化により若い世代の負担が年々増加していることを認識すべきであり、負担を強いることになり、将来のことは知らないという考えにくみすることはできない。

復興道半ばでの10%増税は、住まいの再建事業に大きな困難をもたらす。全国の法人数は約420万社と言われている。その8割以上が中小企業である。地域経済の主人公は文字通り中小の商工業者だ。売り上げ減と復興に係る二重ローンなどで必死の努力をしているときに、増税で追い打ちをかけるようなことはするべきではない。

請願の結果

採択 ○米価安定対策等に関する請願

請願者 新岩手農業協同組合

代表理事組合長 久保 憲雄

不採択 ○「延期」ではなく消費税10%増税の中止を求める請願

請願者 岩手県商工団体連合会・宮古民

主商工会 会長 崎尾 誠

可決した意見書 ○米価安定対策等に関する意見書

提出者 経済常任委員 佐々木勝

提出先 衆参両院議長 長内閣総理大臣ほか関係大臣

議員各に対する議案の賛否の公表

議案番号	請願第5号	議案名	審議結果
		「延期」ではなく消費税10%増税の請願	不採択
今村 正			欠席
小島 直也			×
近藤 和也			×
佐々木清明			×
白石 雅一			×
鳥居 晋			×
中島 清吾			○
伊藤 清			○
内館 勝則			○
北村 進			○
佐々木重勝			×
須賀原チエ子			○
高橋 秀正			×
橋本 久夫			×
古館 章秀			×
工藤小百合			×
坂本 悦夫			○
長門 孝則			○
佐々木 勝			×
落合 久三			○
竹花 邦彦			○
松本 尚美			×
坂下 正明			○
茂市 敏之			×
藤原 光昭			○
田中 尚			○
加藤 俊郎			×

○は賛成 ×は反対
議長（前川昌登）は表決に加わりません。
上記以外の議案は市議会のホームページをご覧ください。

12月定例会で決まりました

議会報告会を開催

宮古市議会は昨年の11月18日、20日、22日の4日間、議長を除く27人の議員が5班に分かれ、15会場で議会報告会を実施しました。平日の夜に加え、今回初めての試みとなる休日の開催も行い、延べ1211人の市民に参加いただきました。

「平成25年度決算の概要」や「議員定数等について」などの議会での審議内容を報告しました。その後に市政や議会についての意見交換を行いました。質問や意見、要望をいただきましたので、主なものをお知らせします。（重茂地区は参加者がありませんでした。）

一班

【宮古市役所】

■宮古市の方向性、ビジョンはどのようなものなのか。

■清寿荘の水道代の経緯はどういうことなのか。

■少子高齢化社会で他人と話す機会が減っている。仮設住宅からはどのような声が上がっているのか。

■市役所の移転は決定済みか。

■山口川に復興道路からの雨水、排水が流れ出て水位が高くなっているように思われるが、対策はどうなっているのか。

■漁港は元通りの型になるのか。震災対策のために船溜まりプールはつくれないか。

■地方創生を市はどのようにとらえているのか。また、市としての取り組みは。

■宮古市の住みややすさランキングは県内14市中13位。森川海を唱える宮古市で、海の見えない防潮堤はいかがなものか。今後は具体的に且つ中身の濃い委員会であってほしい。

■バイパス沿いのドラッグストア近くの道路に段差がありトラック等の振動音がひどい。どうにかしてほしい。

■末広町の一部に海水があがってきている。近くのガソリンスタンドに排水ポンプを設置してほしい。

■藤の川の海水浴場が壊れてきている。赤前のように浜を直してほしい。

【赤前地区】

■仮設住宅の入居者の引越し費用5万円は転出先にかかわらず全世帯に出るのか。

■引越し費用5万円は嵩上した元の土地に新築した場合は出ないとのことだが本当か。

■議員定数が22人になった場合、議会及び議員活動に支障は出ないか。

■議会報告会は必要か。市民がしっかりと意見を言える場か。

■運動公園の、テニスコートやヘリポートはどうなるのか。

■市役所はなぜ今の場所はだめなのか。改修してもいいのではないか。

■住宅建設の費用支払い手続きを簡単にしてほしい。

■建築費用支払い後の支学金や補助金を前倒して支給できないか。

■地域活動のために地区センターを造ってほしい。

二班

【西ヶ丘地区】

■不用額はどのようなものか。

■働く場の確保は課題が大きすぎないか。企業誘致すべきと思う。

■議員定数等について今までは、報酬が安い、選挙に金がかかるなどで若い人が選挙に出られない状況であった。今回の改革はよかったと思う。

■西ヶ丘公営住宅、工事現場付近で地盤沈下、道路の陥没があるが補修はするのか。

■民生委員、行政連絡員の選任の基準はあるのか。

■震災前、藤原埠頭に木材の乾燥施設を作る計画であったそれが震災でなくなった。今後地域産材を生かして

■被災者入居支援事業は防災移転事業の7万円とは全く別物なのか。

■公営住宅の管理を民間委託すべきと思うが検討状況は。

■区画整理事業、国道を改良した後の空間の土地利用、商店街などが形成されるのか。

■議員定数の検討について、今の28名で多いと判断したのか、働く議員であれば減らす必要はない。むしろ増



宮古市役所

いくうえで、乾燥施設を造るべきである。

【田老地区】

■被災者入居支援事業は防災移転事業の7万円とは全く別物なのか。

■公営住宅の管理を民間委託すべきと思うが検討状況は。

■区画整理事業、国道を改良した後の空間の土地利用、商店街などが形成されるのか。

■議員定数の検討について、今の28名で多いと判断したのか、働く議員であれば減らす必要はない。むしろ増

やしても良いと思う。
■仮設住宅の世帯分離を緩和してほしい。子供も年頃になり不都合な時もある。

■避難所に危険が発生した場合、他に避難する際の道路が無い。

【崎山地区】

■震災後、崎山地区自治会では150人以上人口が増えている、道路、側溝等の整備を要望しているが、なかなかやってもらえない。一方では、たろう観光ホテルを多額の金額で買取している。もっと身近な所にも目を向けてほしい。



鉾ヶ崎地区

■増田寛也氏の人口減少問題の提言を信じてはダメ。人口を増やそうと言うよりも環境整備（医療施設、子供働く場）を行うことが必要と考える。

■宮古病院の不便さ、予約以外では診察してもらえない。何とかならないか。

■国道45号、崎山小、中学校入口付近の押しボタン信号機を感應式に変えてほしい。工事用車両などで交通量が増え出入りが困難な状況である。

三班

【山口地区】

■議員定数削減の理由と経過は。

■仮設住宅の利用はいつまでか。

■災害公営住宅も含め公営住宅の民間管理委託は。

■再生可能エネルギーについて議会の取り組みは。

■議員定数を削減し選挙公営制度を導入には賛成、議員報酬の値上げには違和感がある。

■無投票はよくない。政治への関心を高める取り組みが必要。土日や夜の議会開催や報告会の増を検討してはどうか。

■防災組織が高齢化してきた。活動について考える時期である。

■北部環状線道路整備の残土を山の谷間に埋めてはどうか。

【門馬地区】

■議員定数は第三者委員会で検討を。公営制度はポスターよりチラシや広報で。報酬を上げて意見交換の機会を増やしてはどうか。

■シカから高原野菜が被害を受け、作付面積が減少した。器具も仕掛けも効果なく対策を講じてほしい。

■定住化対策に教員住宅を利用してはどうか。

■空き家は取り壊しを。

■川井テレビで議会中継を。

■定住化促進のために、分譲住宅の設置の検討をしては。

■区界トンネル完成後の地域振興と牧野の具体的対策の検討を。

■区界トンネル完成後のビーフレックズの雇用の確保を。

■森林伐採は全伐しないで良い木の保全を。

■門馬出張所がバス停から遠い。門馬小学校に出張所・郵便局・コミュニティ機能の集約を。

【川井地区】

■除雪の優先順位はどうか。しっかりと除雪してほしい。

■選挙公営制度を導入すべき。

■選挙公営制度を導入しても候補者が出るか心配。それなりの活動を求める。

■選挙公営制度の導入は歓迎しない。報酬値上げにも疑義を感じる。

■人口減少の中、議員定数削減に賛成するか疑問だ。

■旧町村の議員確保のために小選挙区制を導入してはどうか。

■シカ被害は電気柵も効果なく、猟友会との関係も含めて遠野市を参考に研究してはどうか。

■市庁舎を駅に移転することに疑問。周辺の活性化策の検討を。

四班

【鉾ヶ崎地区】

■保育の質を上げるために保育士の処遇を改善すべきだ。

■新しいコミュニティにおいてゴミ収集場所の設定が難解だ。

■復興の平成28年度からの計画を示していることを知らせてほしい。

■介護予防に取り組みたくても何の連絡もない。

■被災者の医療負担の免除を延期してほしい。

■浄土ヶ浜道路の橋の強度は心配ないのか調査してほしい。

■水産加工業が一年を通じて仕事があるように企業誘致してほしい。

■交通量の激増により大型トラックなどの危険を感じる。

■新しい鉾ヶ崎に誰が戻るか分からず不安だ。町内組織をつくるのが難問だ。



千徳地区

■区画整理事業の中で家を建てたいが、市からの200万円の支援では建てることできない。増額を望む。

【弘川地区】

- 議員報酬をアップし20人位の議員でやるべきだ。選挙公営制度を導入すべきだ。
- 漁業・観光・雇用の推進は。企業誘致はどうなっているのか。
- 川井地域の地の利を生かした林業の振興を図ってほしい。
- 港湾の活用はどうなっているか。

- 山田線の復旧時には八木沢駅、金浜駅、弘川駅を造ってほしい。
- 個人の建設業は、コンクリート不足で仕事ができなくて困っている。
- 冬の除雪対策をしつかりと。
- 津軽石小学校裏に保育所、公民館、屯所の建設予定があるが、以前の計画を縮小しないでほしい。
- 災害公営住宅に民間の管理人を置くと聞いているが、どのような仕事をするのか。町内活動の兼ね合いが難しくなるがどうなのか。
- 滞在型の観光に力を入れてほしい。
- 道の駅を設けて地域を活性化してほしい。
- スポーツ施設が無いに等しい。
- 市長がトップセールスマンになり企業を引っ張ってきてほしい。
- 宮古に働く場所を確保して高卒の人たちを留めることが必要だ。

【磯鶏地区】

- 中学生まで医療費負担を無料にしてほしい。
- 放射能が心配だ。市民が理解できるように知らせてほしい。パソコンを使わない人に伝える方法を考えてほしい。
- 介護施設が少ない。施設を増やさないのか。
- 金浜地区の造成の進捗状況を地区住民に知らせてほしい。
- 山田線復旧のための市民総決起集会などをしてほしい。

- 仮設から公営住宅に移る際の抽選にもれ、不安が募り病気がちの人がいる。ケアをお願いしたい。

五班

【千徳地区】

- 運動施設が足りない。
- 姉ヶ崎温水プールも遠い。
- 高齢化が進む中で通年使える施設が必要だ。
- タラソの施設の復旧は。
- 最近復興が始まったと感じる。仮設住宅の今後の見通しは。
- 北部環状線、三陸沿岸道路等の進捗状況は。
- 宮古は観光の街だが、新規に道路が開通すると通過交通が増えるだけになる。将来のビジョンは。
- 宮古の文化・芸術の取組が少ない。
- 議員定数削減となる話だが、委員会の数はどうなるか。
- 今回の市議会選挙は無投票のため新人の考えがわからない。広報に新人の意見を掲載できないか。
- 町内に復興住宅の建設が始まった。地域での取り組みの中、入居者の名簿が必要だ。役所では教えられないとのことだが、何とかならないのか。
- 「しるしる宮古」と言う冊子がある。歴史などを子どもたちに伝えることから、教育の中で取り上げられないか。

【新里地区】

- 廃線JR岩泉線の利活用の話を聞いているか。
- 不登校の現状は。
- 新里地区の学校統合の影響は。
- 宮古市の将来をどう考えているか。限界集落の話もあるが。
- 地域創造基金の今後は。
- 新里地区は、豪雨により土石流の危険がある。ハザードマップの作成は。
- 学校統合問題で、地域が疲弊してしまふ。子供のいない地域には将来がない。



花輪地区

- 須賀原千エ子 議員 (ネクストみやこ) (10)
- ◎除雪体制について
 - ◎市民の憩いの場である藤の川海水浴場の保存について
 - ◎薬物乱用の危険性とその防止について
- 竹花 邦彦 議員 (新風クラブ) (10)
- ◎JR山田線(宮古・釜石間)の三陸鉄道運営について
 - ◎行政組織のフラット化・グループ制について
- 茂市 敏之 議員 (復興を考える会) (11)
- ◎地方創生について
 - ◎小売業の振興策について
- 近藤 和也 議員 (ネクストみやこ) (12)
- ◎「みやこ」の観光と情報発信について
 - ◎「行政に頼らないまちづくり」の推進について
- 橋本 久夫 議員 (ネクストみやこ) (12)
- ◎自然と人々の営みに配慮したまちづくりについて
 - ◎里海づくりについて
 - ◎インバウンド観光の戦略について
- 内館 勝則 議員 (新風クラブ) (13)
- ◎生涯学習推進本部の現状と課題について
 - ◎小学校統廃合における閉校校舎の利活用について
 - ◎文化の振興について
- 田中 尚 議員 (日本共産党) (14)
- ◎JR山田線復旧事業等について
- 小島 直也 議員 (公明党) (14)
- ◎森づくり体験学習会の開催内容について
- 伊藤 清 議員 (一新会) (15)
- ◎米価下落対策について
 - ◎シカ駆除対策について
- 北村 進 議員 (新風クラブ) (16)
- ◎漁業者育成の手立てについて
 - ◎子どもたちの心のケアについて
- 今村 正 議員 (尽政クラブ) (16)
- ◎市庁舎移転の建設内訳について
 - ◎宮古市空間線量率の上昇について
 - ◎安全な放射線量について
 - ◎住民説明会について
- 長門 孝則 議員 (新風クラブ) (17)
- ◎水道事業の経営について
- 落合 久三 議員 (日本共産党) (18)
- ◎防災集団移転事業などで土地を譲渡した場合の税並びに使用料等の負担について
 - ◎中心市街地拠点施設整備事業について
- 松本 尚美 議員 (一新会) (18)
- ◎ファンド(投資基金)の創設と運用を
 - ◎農林水産業におけるIT活用強化を
 - ◎道路網整備を見越しての戦略は
- 中島 清吾 議員 (日本共産党) (19)
- ◎子どもの医療費無償化政策について

一般質問 「こ」が聞きたい

市政を問う

■議会報告会を小規模で開催することはできないか。

■集会所の管理料はもらっているが、修繕費は制約が多く使い勝手が悪い。なんとかならないか。

■太長根地区だが、降雨時に国道から下流の市道に雨水が流れこむがどうにかならないか。

■学校の机・椅子を宮古の木材で作している。産業振興として全国発信できないか。

■暮目では復興工事車両の増加に伴い、舗装道路の痛みが激しいが、補修を迅速に施工するようにできないか。

■企業誘致の取り組みはどうなっているか。

■ブルーチャレンジプロジェクトの物質バイオマス計画は。

【花輪地区】

■田鎖地区の排水対策はどうなっているのか。

■長沢川の浚渫と立木の除去はどうなっているか。

■復興の進捗状況は。

■議員定数減による委員会構成は。

■議員定数減となり住民の意見を十分拾えるのか。

■選挙の公営選挙は取り入れるべき。

■農協前の歩道・水路整備をお願いしたい。

■雇用問題のほかに独身者の遊ぶスペースや娯楽施設がない。

■職業訓練が終わっても求人倍率は高くないが希望の職種が少ない。





須賀原 千工子 議員

質問 除雪体制の 検証と改善点は

答弁 除雪作業員や 機械を増強する

問 平成26年2月の豪雪に市民は難儀した。除雪について市民から多くの指摘がなされた。平成25年度の除雪の検証と改善点について伺う。

答 山本市長

委託業者や自治会から聞き取りを行い、作業区域の見直しや除雪時の幅員の確保、情報の収集及び周知等の問題が挙げられた。平成26年

度は受託者を23者から25者に作業区域の調整を6区域見直し、除雪の周知は防災無線で路上駐車撤去の呼びかけを行う。作業員を6名から8名に、ロータリー車1台を購入、除雪機械は48台から50台に増やし配置する。

問 歩道除雪対策は

盛岡市では歩道の除雪のため平成14年度から町内会等に小型除雪機を151台貸し出し、雪の

運搬用に運転手付きトラックの貸し出しを行っている。本市も高齢化や自治会機能の低下により、歩道の除雪が困難になっている。見解を伺う。

答 山本市長

共助の取り組みを進めていく必要がある。
問 藤の川海水浴場の保存策は
市民の憩いの場であり、国道45号からの景観も素晴らしい藤

の川の海水浴場の津波対策について、県から防潮堤案が示された。地区住民は国道45号の高上げを提案していたが、見解を伺う。

答 伊藤教育長

津波対策工事後の形状での開設を行い、砂浜の保全、避難対策に配慮した整備計画とするよう県等と協議を進めていく。



竹花 邦彦 議員

質問 三鉄運営は課題検証も 踏まえ判断を

答弁 JRの支援内容を 総合的に勘案し判断



三陸鉄道宮古本社・宮古駅



藤の川海岸防潮堤の計画図

問 JR山田線の三陸鉄道運営移管について、年内に最終判断、結論を出すとした。市長は、JR提示の移管協力を金を評価しているが、その理由を伺う。また、最終判断に向けた市長の考えを示すよう求める。

答 山本市長
JR東日本の支援内容は、車輛・地上設備・用地の無償譲渡、移

問 三陸鉄道運営になった場合に懸念される課題等についても検証と議論を行い、最終判断に活かす

管協力金30億円、軌道の強化、人的支援等であり、地元自治体や三陸鉄道の要請事項に沿った内容と評価している。提案に対する最終判断は、12月5日開催の住民説明会や市議会への説明の結果を踏まえ、最終判断したいと考えている。

問 必要がある。その認識から次の点を伺う。①JR提示の赤字補填額（10年分5億円）の妥当性を含め、山田線の赤字想定額を検証すべきと考え

るかどうか伺う。②大規模災害時の復旧費用は、三陸鉄道経営に重大な影響を与え、関係自治体の財政負担にも直結する大きな課題となる。災害発生時の財政負担対応をどう考えるのか伺う。

答 山本市長
①赤字補填額の妥当性判断については、今回提示されたJRの支援内容を総合的に勘案し判断したい。②大規模災害時の財政負担は、

国と地元自治体が各4分の1、鉄道事業者が2分の1の負担割合の補助制度を活用する。しかし、被害の規模によっては、移管協力を活用することもあると考えている。



議員 茂市 敏之

質問 地方創生への取り組みは

答弁 地域再生計画について検討する

問 日本創生会議の座長を務める増田寛也氏から、消滅可能性都市という衝撃の発表があり、この中に本市も含まれている。本市にとって震災復興と合わせて今後の最重要課題である。これが安倍内閣において内政の主要課題と認識され「まち・ひと・しごと創生本部」が設置されるとともに、地方創生関連2法案が可決された。その内容を見ると、やる気のある自治体に対し集中的に政

策資源を投入し「政策効果を最大化する」としている。このことについて、どのように取り組むか伺う。

答 山本市長
現在策定中の宮古市総合計画の内容に通じるものであり、これに沿って「まち・ひと・しごと創生」の取り組みを進める。地域再生計画については、今後その策定を検討する。

問 東京在住者の4割が、地方への移住を検討している。空き家対策と耕作放棄地を市で買い上げ、移住する方に無償で提供し、イターン・Uターンにつなげてはどうか。

答 山本市長
空き家や耕作放棄地の活用を含めた、イターン・Uターンなどの移住を促進する取り組みについて、今後研究する。

問 小売業の振興策の継続を宮古商工会議所は、本年4月消費冷え込み対策のためキャンペーンを実施した。これを市長はどう評価するのか。また、このような取り組みを継続すべきと思うかどうか。

答 山本市長
購買の冷え込み対策の目的は達成できたと考えている。今後も必要であると考えている。



人通りの少ない末広町商店街



近藤 和也 議員

質問 新しい情報発信の事業に取り組んでは

答弁 様々な機会に発信していく



情報が満載の宮古市のフェイスブック

問 宮古市で観光を考えると、セルスポイントをきちんと整理、発信し、観光客を多く呼びこむための下地づくりをきちんと行っていく必要がある。それは宮古市にあるいろいろな素晴らしいもの、良いもの、面白いもの、楽しいもの、美しいもの、歴史、文化、人など、「みやこ」ならではの情報を総合的にわかりやすく紹介することだと思

冊子、またウェブでの統合的な情報発信の確立など「みやこ」の面白さ、楽しさを紹介するコンテンツづくりを事業として真剣に取り組む必要があると思うが考えを伺う。

答 山本市長

先進自治体の事例を研究しながら、様々な機会を捉えて「みやこ」の面白さ、楽しさを広く伝える情報発信に取り組んでいく。

問 観光情報が発信不足では、来年、宮古港開港400周年だが、今ひとつ盛り上がりに欠ける。情報発信について伺う。

答 山本市長

務めていく。
■市民力向上と協働の施策は、市民が行政に頼っているうちは市民参画の協働というものが進まないと考える。これは市民が自

ら企画し行動することを行政がサポートすることで市民主体のまちづくりが「成る」ということであり、これからの人口減少や過疎化を考えると「自ら考え動く市民」をつくっていくことは必要なことと思うが考えを伺う。

答 山本市長

協働に関する意識醸成と各制度の周知に努め、市民との協働によるまちづくりを進めていく。



橋本 久夫 議員

質問 藤の川海岸の防潮堤は必要か

答弁 津波防護施設整備は必要と認識している



震災前の白砂青松の藤の川海岸

問 県の藤の川海岸の防潮堤計画に大きな違和感を感じる。この問題は、長期性、大規模性、不可逆性を有する土木事業を遂行するための情報が開示されていない。住民との熟慮の上での合意形成がされていない。この海岸は景観も含め、住民の親水空間、生物の生育場としても唯一残された宮古湾最後の砦。防潮堤によって遮断されれば、これまで築いてきた海との生活文化の衰退、生態系への影響、海が見えなく

なることによる防災意識の希薄化を生むのではと考えるが見解を伺う。
山本市長
県では宮古湾内をプラス10・4mの高さで津波から防護するとう考えに基づき、住民説明会や現地説明会を開催し、藤の川地区の津波防護施設整備を検討している。海への景観確保の要望は県も認識しており対応策を検討している。市としても津波に対する安全確保を大前提に観光や沿岸漁業、生態系や生活文化

への影響が最小限となるよう県と協議していく。
問 里海づくりに取り組む考えはないか
沿岸域、里海の環境悪化が進む影響が及ぶことのないよう、里海づくり、里海教育に取り組んではどうか
山本市長
里海の現状を見守りながら、環境に対する意識啓発の取り組みを

行っていく。
問 インバウンド観光の戦略は
外国人観光客の受け入れを戦略的に取り組む必要があるが考えを伺う。
山本市長
県と連携しながら台湾からの観光客誘致に向けてPRを行っている。



内館 勝則 議員

質問
生涯学習推進本部の活動状況を示せ

答弁
活動成果は不十分で抜本的に見直す

進本部のあり方や取り組みの抜本的な見直しを図っていく。

問 生涯学習の推進体制を充実させる各種施策や事業を実施するための推進本部が設置されているが、具体的な取り組みが見えないがその現状と課題について伺う。

伊藤教育長

答 推進本部は、庁内各課で実施している生涯学習関連事業の総合的な企画・調整と施策を具体化するため設置されているが、活動成果が十分と言えず、関連事業の取りまとめにとどまっていることから今後、推

■統合閉校校舎の活用計画を示せ
問 統合により平成27年3月閉校となる川井西小、江繋小、小国小学校3校の活用方針について伺う。

伊藤教育長

答 地域住民の意向を踏まえ、公共施設マネジメントの観点、地域経済の発展や効率的な行財政運営の視

■小国分館の一般公開の見直しは
問 今年4月に公開予定だった、北上山地民俗資料館小国分館の一般公開予定の見直しについて伺う。

伊藤教育長

答 建築基準法上、排煙設備や壁の耐火ボード化の改修工事が必要なため、公開できない状況となってい



閉校する川井西小学校校舎

る。今後、国道340号中継拠点施設整備事業構想と併せて一般公開に向けて検討を重ねていく。

■「崎山貝塚」整備後の運営計画は
問 「崎山貝塚」整備後の運営計画について伺う。

伊藤教育長

答 縄文体験事業の拡充、史跡の展示解説、文化財の企画展示、遺跡調査報告会事業に取り組む。



田中 尚 議員

質問 山田線復旧と 存続課題は

答弁 利用しやすいダイヤを 要望



臨時列車さんりくトレイン号

問 JR東日本は復旧後の運営・管理形態を被災区間復旧事業の着工条件にしている。こうした対応をどのように考えるか伺う。

答 山本市長

山田線の三鉄運営案は復旧とその後、同時に検討の必要がある。復旧の前提に利用促進や効率的運営の観点から、南北リアス線と山田線を一体で運営することは有力な選択肢になる。

問 山田線復旧問題は地方鉄道の今後のあり方も提起している。市長は鉄道存続に必要な課題と、実現通しをどう考えているのか伺う。

答 山本市長

最も重要なのは鉄道利用者を確保し、地域が一丸となって鉄道を支えることだ。三鉄はマイレール意識で地域が鉄道を支え、3年で全線復旧した。山田線もそのような体制は可能と考えている。

問 都市間移動で需要の大きい区間は宮古・盛岡間だ。宮古・盛岡道路の整備後はJR山田線当該区間の存続問題が浮上するが、その対応をどう考えているか伺う。

答 山本市長

宮古・盛岡間は鉄道と路線バスが並行して運行され、各交通機関の役割分担などで共存を図る必要がある。県立宮古病院の医師確保へ、列車運行時間の短縮提案があ

る。軌道改良など根本的な対策が望ましいが、それ以前でも2時間以内の運行実績もある。快速列車のダイヤ改良を求めるべきだが見解を伺う。

答 山本市長

現在、臨時列車の運行で観光利用の促進に取り組んでおり、今後運行時期や本数などJR東と協議しながら進めていく。日常利用では、利用しやすいダイヤ編成を要望していく。



小島 直也 議員

質問 森づくり体験学習会の 充実を

答弁 市民による活動の充実 に努める



緑豊かな資源

問 毎年行われている「森づくり体験学習会」の内容が、植樹と森林の勉強、そして森林内の散策となっているが、平日ではなく休日開催とし、多くの市民を巻き込む催事として、もっとポリュームが欲しいと考える。そして、市民が林業を再認識でき、子どもたちが自然に接するチャンスを、林業の将来へつなぐ

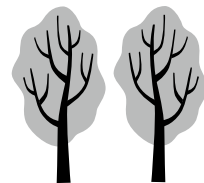
機会と捉え、内容を吟味すべきと思うが、考えを伺う。

山本市長

答 平成14年度から区界地区の市有林で、川井地区小中学校の森林愛護少年団を主体に実施してきた。また、平成21年度からは、グリーンピア三陸みやこ市有林において「みやこ市民の森づくり事業」も行っている。

さらに、緑の募金活動事業として「休暇村宮古」や「湯ったり館」付近の山林において、市内小学校を対象に、自然観察や木工教室などの自然環境学習を行っている。市内各地域において森林体験事業を行うことが、自然の大切さや林業の必要性を学習する好機と捉えている。今後

も市民による森林づくり活動への参画を推進するため、事業内容の充実に努めていく。



伊藤 清 議員

質問

米価下落対策を

答弁

国の動向を注視する



駆除対策をする猟友会のみなさん

問 米価が全国的な過剰在庫により大幅に下落し、農家は苦境にあえいでいる。収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）制度での補填は、本市では0件で収入補填がない。来年度から加入条件が緩和される。加入奨励と合わせ、負担軽減を図るべきと考えるが、市長の見解を伺う。

山本市長

答 加入要件緩和の周知を図るとともに、「農業経営改善計画」「青年

等就農計画」の作成を支援し、制度加入対象者になれるよう進める。ナラシ対策加入者の負担軽減を図るため、市が補助をおこなうことは、難しいものと考えている。米価下落対策は、国の動向を注視していく。

特別栽培米の販路拡充を

問 現在、学校給食へ地元産米の導入を図るため、補助制度が実施されている。更に生産拡充のため、

民間事業者も含め保育所や介護施設への導入について、積極的な働きかけが必要と考えるが、市長の見解を伺う。

山本市長

答 保育所、介護施設への地元米の導入については、今後、研究していく。

シカ対策としての緩衝帯の設置は

問 シカを山裾（里）に近づけない対策として、緩衝帯を整備し

被害を減らすことを提案したが、更に羊やヤギを放牧することで効果が上がっている事例がある。本市においても、早急に取り組むべきと考える。市長の見解を伺う。

山本市長

答 提言を踏まえ、「宮古市鳥獣被害防止対策委員会」で緩衝帯の設置について検討していく。



北村 進 議員

質問 漁業者育成の手立ての 現況は

答弁 各漁協で一人で 3人目標



漁船と閉伊川水門

課題だ。支援策について伺う。

答 山本市長

①漁業就業希望者の受入・育成、座学研修・実践研修の斡旋、情報提供等を行う。②各漁協一人で3人目標。漁業就業支援フェアに参加、相談者14人。募集の周知を図る。③協議会事業で「街コン」「お見合いパーティー」等の実施を検討する。すまいは民間住宅の斡旋を行う。

■子どもたちの心のケアについて
子どもたちの心の安定が第一であり、学習環境を整えることが重要と考える。①行事や会議、震災支援やイベント対応について精選と抑制が必要と考えるが、見解を伺う。②不登校の現状と対応策について伺う。③スクールソーシャルワーカーとの連携強化を図るべきと考えるが見解を伺う。④学校の労働安全委員会の活動状況について伺う。

答 伊藤教育長

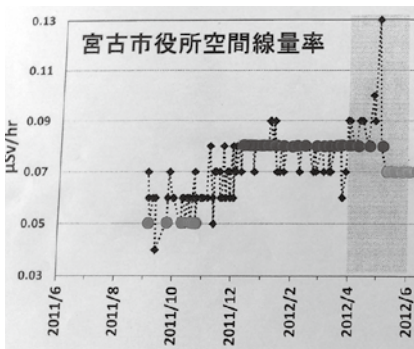
①教職員が充実感と意欲をもって子どもと向き合えるよう努めていく。②不登校数は昨年比で微増。関係機関と連携し解決と学校復帰に向けて、対応していく。③小学校は必要とする学校へ、中学校は全てに派遣し専門的支援を行っていく。④副校長等の衛生推進者を中心に健康の保持増進や健康回復等を行う。



今村 正 議員

質問 市庁舎移転の 一人当たりの借金は

答弁 現在、 具体的に検討中



宮古市役所空間線量率

問 市庁舎移転の一人当たりの借金は。

山本市長

答 現在、具体的に検討中だ。建設単価を「 m^2 当たり40万～45万円（1坪当たり132万円～148万5千円）」、建設規模は「15,360平米」と想定。概算事業費は、施設機能の具体的な検討を行う「基本計画」策定時において精査し決定する。現在、施設の機能や規模、配置、整備財源

などを具体的に検討している。そのうえで議会に示し、市民説明会やパブリックコメント（市民意見公募）を実施していく。

山本市長

問 年間1ミリシーベルトの被ばくは、健康に影響がなく、「安全である」根拠のデータや研究を調査したが発見できない。ご提示頂きたい。

山本市長
放射線の差異による健康への

影響について、被害の通告例がなく、人為的な放射線による年間追加被ばく線量の限度を、1ミリシーベルトとしても妥当である。という考え方による。宮古市に限らず全国の自治体では、国の示す1ミリシーベルトを基準としている。

山本市長

問 空間線量率の異常上昇や、環境省の測定法の不備が明らかになっている以上、住民説明会を行うべきだ。「風下に住む住民が、焼却

により不利益を被るものはない」とのことだが、その根拠を伺う。

山本市長

答 環境省の測定方法の不備が明らかになったとのこと指摘だが、そのような事実はないと認識している。これまで何度も答弁している通り市内の空間線量率は農林業系副産物の焼却処理において影響はなく、不利益を被っている住民はいないと認識している。



長門 孝則 議員

質問 水道事業の 経営健全化を

答弁 漏水防止のため調査を 実施する

快適な給水確保の観点から伺う。

答 有収率は、平成25年度に78.21%となり、近年低下しており、その主な原因は、配水管の老朽化等による漏水量の増加と考えている。有

収率改善の重要な対策は漏水の防止であり、漏水調査や老朽化した配水管の布設替え工事を行うなど、漏水

箇所の抑制に努めているところだ。

また、給水原価は1 m^3 当たりの水道水をつくる費用、供給単価は1 m^3 当たりの水道料金収入のことで、料金水準及びコストについて判断する指標となっている。

給水単価が約141円に対し、供給単価は139円で、供給単価が2円ほど下回った。これは、震災後の料金収入の減少に加え、料金収入と

の上昇などが影響したものだ。今後は、有収率の向上、経費の削減などにより、これらの改善に努める。

宮古の上水道は、市民の皆様から「安くておいしい水」との評価を受けており、健全な経営を継続していく。

ならぬ漏水量の増加や、電気料金



宮古市水道公園

問 本市の水道は、昭和27年6月に給水を開始以来、60年を経過しているが、水源を豊富な地下水に求め、しかも、県下でも低廉な料金で供給し、多くの市民から喜ばれている。しかし、一方で近年、水道事業のパフォーマンスとも言われている有収率が年々減少し、供給単価は給水原価を下回り、純利益も減少している。そこで、経営の健全化を図り、

また、給水原価は1 m^3 当たりの水道水をつくる費用、供給単価は1 m^3 当たりの水道料金収入のことで、料金水準及びコストについて判断する指標となっている。

給水単価が約141円に対し、供給単価は139円で、供給単価が2円ほど下回った。これは、震災後の料金収入の減少に加え、料金収入と

の上昇などが影響したものだ。今後は、有収率の向上、経費の削減などにより、これらの改善に努める。

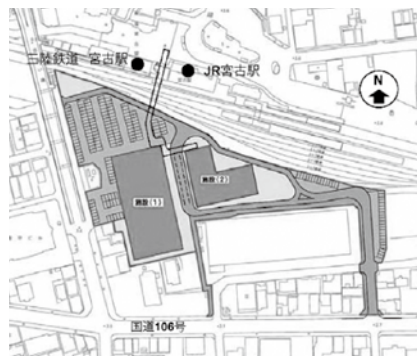
宮古の上水道は、市民の皆様から「安くておいしい水」との評価を受けており、健全な経営を継続していく。



落合 久三 議員

質問
市庁舎変更等に伴う特別議決をどう受け止めるか

答弁
市政運営に関する重要事項と認識する



計画されている新庁舎
(配置はイメージです)

問
市庁舎の設置・変更は、議会で3分の2以上の同意が必要だ。住民代表機関である議会との協議、合意形成が特に重要だが、市長の見解を伺う。

答
山本市長
市政運営に関する重要事項で、特別多数議決が必要な案件と認識している。

問
市庁舎建設は合併特例債だが、事業費については、11月に発行した市のパンフレットによれば、3施設の建設費は61〜70億円（m当たり40〜45万円）となっている。市庁舎は合併特例債、市民の賑わい施設は復興交付金、保健センターは災害復旧費としている。120億円の枠内で収まるのか伺う。

答
山崎企画課長
新市建設計画策定時で発行可能額を160億円の80%の127億円とし、現在は、その枠の67・7%の86億円余りを起債している。

問
市庁舎建設費は40〜45億円です。市庁舎からはみ出すが、どう考えているのか伺う。

答
中村都市計画課長
用地取得費、造成費、補償費で約17億円前後と考えている。

質問
ファンド（投資基金）の創設と運用を

答弁
予定はないが今後、調査・研究する



整備中の三陸沿岸道路



松本 尚美 議員

問 ファンド（投資基金）を創設し、事業再生、拡大、創業、起業（ベンチャー）を促す手段として、地域活性化策として活用、推進している自治体がある。本市においても研究・検討すべきと考える。市長の現状認識と活用の是非について伺う。

答 山本市長
起業家支援等を目的に県内では、遠野市、盛岡市と滝沢市が設立

したファンドがある。現在までの投資実績は計9件と聞いている。極めて専門性が高い分野と考えている。本市では現在、ファンドを設立する予定はないが、他市町村の事例も踏まえて、今後、調査・研究をしていく。

問 ■農林水産業におけるIT活用強化を地方創生の大きな柱として、農林水産業の活性化がある。産

答 山本市長
農林水産業におけるIT活用は、生産性の向上、品質管理、販路拡大、経営効率化、農山漁村の活性化

答 市を取り巻く環境が大きく変化するので、産業振興戦略に取り組んでいく。

地間競争に勝ち抜き、データに基づく経営、新しい生産技術の導入、マーケット拡充など、儲けられる産業にするための必須、かつ戦う武装ツールと考える。IT活用強化の必要性も含め市長の認識を伺う。

等に有効、寄与することから、今後も連携し推進する。

問 ■道路網整備を見越しての戦略は市長の構想力に大きな期待を込めている。戦略について伺う。

答 山本市長
市を取り巻く環境が大きく変化するので、産業振興戦略に取り組んでいく。



中島 清吾 議員

質問 子供の医療費無料化の 進展状況は

答弁 引き続き対象年齢拡大 を要望している

問 9月定例会の一般質問で、子どもの医療費無料化について「県の動向を見ながら検討をしていく」との答弁だったが、その後の進展状況について伺う。

答 山本市長
本年9月市議会定例会にお

いて議員からの質問に答えたとおり、引続き岩手県に対し県内市町村と連携し、子供の医療費助成に係る県補助事業の対象年齢拡大を要望してい

問 県は医療費無料化に積極的と聞くが各市町村の対応にばらつきがあるようだ。宮古市はどのような考えを県に示したのか伺う。

答 山本市長
県からは平成28年度より子供の医療費助成の県補助事業に係る対象を小学生の入院に係る医療費分まで拡大し、同時に、子供及び妊産婦の県補助事業医療費については、現

物給付を実施したいとの提案を受けている。宮古市としては、現物給付を実施した場合、該当する国庫加入者の医療費に対する国庫負担金の減額が生じることから、実施するためには、何らかの財政的支援をお願いしたいとの回答をしている。

問 県の対応に関わりなく、来年度から実施する決意を示すべきと考えるが、市長の見解を伺う。

答 山本市長
今後も、県との調整を密にしなが、医療費助成に係る県の実質的な財政支援の拡大について、強く要望を続けて行くとともに、これまで質問のあった中学生までの医療費無償化については、財源等の課題を抱えているので、引き続き検討していく。



学童の家



ご挨拶

宮古市議会議長

前川 昌登

ご挨拶を申し上げます。市民の皆さまにおかれましては、日頃より宮古市議会に対する温かいご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

平成23年3月11日発生の東日本大震災から3年10ヶ月が経過いたしました。これまで、宮古市は復興計画を策定し、多岐にわたる復旧・復興事業に全力で取り組んでまいりました。平成26年度からは、本格復興期間として計画の再生期に移り、以後平成31年度まで完全復興に向け、多くの事業が実施されてまいります。我々市議会といたしましては、市民の皆さまが一日も早く安心、安全に暮らせる災害に強いまちを復興するため鋭意取り組んでまいり所存でございます。

会報告会を開催いたしました。初の試みとして土曜日の日中にも開催いたしました。報告会場では、議会での審議や活動状況、及び議員定数等についての検討状況をご報告するとともに、市民の皆さまから市政の取り組みなど多岐にわたりご意見をいただきました。

市議会は、今後も市民の皆さまと意見を交換し、情報の共有を図りながら、市民福祉の向上を念頭に、誠心誠意、議会運営に努め、宮古市の復興、更には発展のため全力を尽くしてまいります。どうか、市民の皆さまには、本年も変わらぬご理解ご協力をお願い申し上げます。

今村直也	小島和也	近藤清一	佐々木明	白石晋一	鳥居雅一	中島清吾	伊藤清	内藤勝	北村進	佐々木重勝	須賀チエ子	高橋秀正	橋本久夫	古館章秀	工藤小百合	坂本悦夫	長門孝則	佐々木三勝	落合久彦	竹花邦彦	松本尚美	坂下正明	茂市敏之	藤原光昭	田中光昭	加藤尚	前川昌登
------	------	------	------	------	------	------	-----	-----	-----	-------	-------	------	------	------	-------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------

ラジオで放送しています。

宮古市議会では、本会議で決めること、決まったことを、みやこハーバーラジオ（82.6メガヘルツ）で放送しています。放送は本会議開催中で、時間は午前8時20分頃です。

Facebookをはじめました。

宮古市議会では、議会の活動をお知らせするためFacebookで宮古市議会公式ページを開設しました。宮古市議会のトップページのリンクをクリックしてご覧ください。

インターネット中継をしています。

宮古市議会では、本会議の映像をインターネットで生中継（ライブ）・録画中継しています。生中継は本会議開催中です。会期日程をご確認のうえ、ご覧ください。録画映像は、本会議のおおむね5日後（土日祝を除く）から配信いたします。（パソコン対応のみ）

本議会傍聴者数

12月10日	3名
12月15日	18名
12月16日	8名
12月17日	5名
12月19日	2名

次回3月定例会について

3月定例会は、2月中旬の開催予定です。会期日程が決まり次第、宮古市議会のトップページに掲載します。くわしくは議会事務局（68-9113）におたずねください。

編集後記

編集委員
佐々木 清明

あの東日本大震災から、早いもので間もなく4年が経とうとしております。復旧・復興も順調に進んでおりますが、仮設住宅生活を余儀なくされている方もたくさんいらっしゃいます。一日も早く元の生活に戻れるよう私たちも頑張ります。

さて、議会報告会を11月18日から22日まで議員が5班に分かれて、各地域に出向き活動状況のご意見やご質問、ご提言及びご要望を頂きました。寒い中、会場に足を運んでいただきました皆様からのご提言やご要望につきましては、市や県の担当者へ報告いたしました。

これからは人口減少対策、定住化促進、市庁舎移転などたくさん課題がありますが、力を合わせよりよい方向に進むよう努力いたします。

これからも、議会だよりの充実を図り、皆様方が見やすいものになるよう頑張ります。

議会広報編集特別委員会

- 委員長 橋本 久夫
- 副委員長 近藤 清也
- 編集委員 佐々木 清明
- 鳥居 清晋
- 中島 清吾
- 内館 勝則
- 北村 進
- 須賀原 チエ子